

フラッシュカードアプリを使ってみよう！

—Quizlet

オリジナルのフラッシュカードが簡単に！

デジタル教科書等ではおなじみのフラッシュカード。

大変ご好評いただいておりますが、教科書に掲載されている単語だけでなく、もっとたくさんの単語のカードがないかなあ、と思われる先生方はいらっしゃらないでしょうか。

実際に、パワーポイントやキーノートなどで、自作していらっしゃる先生方のお話もうかがうことがあります。

そこで、今回ご紹介するフラッシュカード作成アプリ **Quizlet** です。

Quizlet は、2005年、15歳だった Andrew Sutherland のひらめきから作成されたアプリです。現在では世界中に2,000万人のユーザーがいます。アプリ、と書きましたがホームページ上で作成することも可能ですので、お手持ちのタブレットやスマートフォン、PCで運用することが可能です。

利用するにはまずサインアップします。これは初回の利用時のみで後はこの情報でログインします。Facebook や google アカウントをもっていればより簡単にログインすることができますが、お持ちでない場合は Username と Password を作成・登録すればログインできます。

カードの作成方法も簡単。上部の“[Create a Study Set](#)”のボタンを押せば新しいカードセットが作成できます。

“[Terms](#)”の欄を English に設定して英語を入れます。“[Definition](#)”の欄を Japanese に設定して意味を入れます。または、“[Import](#)”の青いボタンを押して、お手持ちのデータをコピー & ペイストします。

最低限必要な作業はこれだけです。

このとき、単語だけでなく、暗記例文などを登録することも出来ます。

ひとつ気をつけたいのは、デフォルトでは公開されている状態になっているということです。公開したくない場合には、“[Create a Study Set](#)”をクリックした際に、Set title を入力する欄の横にある“[Visible to everyone](#)”と“[Editable by just me](#)”を操作します。たとえば、教場だけで使用する場合には“[Visible to](#)”の部分“[Just me](#)”に変更してもよいでしょう。

ここまで準備が終われば、**Quizlet** では自動で英語や日本語を読み上げます。多少、機械っぽさは残りますが、補助としては十分ではないでしょうか。気になる場合は、自分で録音することもできます。

このようにして、**Quizlet** を使えば簡単に教科書に出てくる新語以外の語についてもフラッシュカードを作ることができます。また、8月6日に大阪で行われた第2回ワークショップで話題に出たように、問題集を教場で扱う際にも簡単にフラッシュカードで確認することが可能です。

スマートフォンやタブレット、PCなどを所有している生徒に紹介すれば、その生徒が家庭学習などの際にオリジナルのフラッシュカードを作成・利用することも出来ます。また、先生方が生徒に覚えさせたいと思うフラッシュカードを自作するような場合には、“**Visible to everyone**”を“**People with a password**”に変更して生徒にパスワードを配布する、といった使い方も出来るかもしれません。

Quizlet にはフラッシュカードとしての機能のみならず、テスト機能などもついているので、個々の事情に合わせた幅広い使い方が出来そうです。

Quizlet のホームページ（英語）は <https://quizlet.com/> です。

(2015.10.30 編集部)